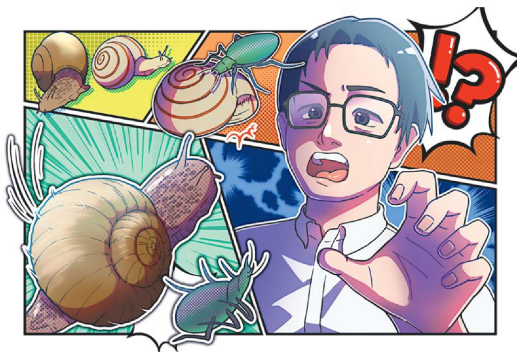


オサムシがカタツムリを多様化?!



森井悠太准教授

す。ではどのようにして、カタツムリとその天敵であるオサムシを対象に、生き物の多様化を支える仕組みを明らかにしようとしています。



イラスト・弘前大学大学院地域共創科学研究科 赤沼しおり

を調べたりすることです。具体的には、カタツムリと天敵であるオサムシを同じケージに入れて観察したり、DNAを調べたりすることです。

野外的な環境では、気温、湿度などさまざまな要素が複雑に関わっており、条件をそろえて観察するのは簡単ではありません。そのため、野外で採集したカタツムリを研究室に持ち帰り、環境を整えて観察を行います。しかし、カタツムリは夜行性で刺激に敏感なため、わずかな光や音でも動かなくなり、観察においては、暗くて静かな環境を整え、根気よくデータを取る必要があります。さらに、カタツムリの寿命は2〜3年と長く、結果が出るまでに時間がかかります。このように手間と時間がかかる研究ですが、地道な観察の積み重ねやデータの記録が、生き物の多様化のしくみを理解する大切な一歩となっています。

最後に、森井先生からのメッセージ
さまざまな分野の学問や芸術に触れ、さまざまな良い経験をし、失敗を恐れず挑戦し、



木志乃

「捕食・被食関係に着目した生物多様性の創出と維持」についての研究です。現在、地球上には数えきれないほどの生き物が存在しています。が、元をたどればそれらは全て地球に生まれ たたったひとつの生命の子孫であるはずで

て、これほど多くの生き物に枝分かれし多様化したのでしょうか。ダーウィンの進化論を

発表して以来、世界中で生物の起源や進化の仕組みをめぐる研究が行われてきました。しかし、生き物の多様化とその維持については不明な点が多く残されています。弘前大学の森井悠太先生は「捕食・被食者間相互作用（食う食われる関係）」に注目し、カタツムリとその天敵であるオサムシを対象に、生き物の多様化を支える仕組みを明らかにしようとしています。

自身の世界を広げる努力をすると良いと思います。どんな苦境もポジティブに捉えられるような巨人・超人を目指して日々を全力で楽しんで、とにかく大きく成長してください。自身で決めた目標に手を抜かずに取り組むことが大切です!

異なる特徴理由探る

探究心旺盛な小中高生の皆さんに向けて、弘前大学の先生たちのユニークな研究を紹介

森井先生は現在、主に北海道に生息するカ

ヒメマイマイ (左) とエゾマイマイ (右)

【農学生命科学部/生物学科】



((43))